

第七十二回

瀬戸市文芸発表会

特選作品

俳句

【田口 風子 先生選】

《一般の部 特選》

秋風に乗り車椅子朗らかに
土を出て土に帰らむ土雛
菜の花の揺れて明るき風の道

熊本県熊本市
愛知県小牧市
東京都大田区

貴田 雄介
鈴木 年春
右田 俊郎

《小中学生の部 特選》

かぶとむし持ってホームの別れかな
かき氷ブルーハワイって何の味
したたるは努力のかけら光るあせ

光陵中学校二年
水南小学校六年
聖霊中学校三年

赤川 陽大
赤 林 檜
ダンボ

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部 特選》

瀬戸黒に映ゆる一服炉を塞ぐ
中也の忌ゆあんゆよんと心揺れ
名も歳も忘れし母にカーネーション

瀬戸市市川西町
石川県小松市
瀬戸市東山町

井上 美智子
上田 俊朗
山本 和史

《小中学生の部 特選》

かぶとむし持ってホームの別れかな
雨降ると雫の宝石紫陽花に
鮎のぼる生き生き生きとのぼってく

光陵中学校二年
聖霊中学校二年
品野中学校二年

赤川 陽大
植草 悠
日高 蓮太郎

【加藤 かな文 先生選】

《一般の部 特選》

新涼や壁を離れた一輪車

足を組む河童の箸置き川床料理

素麺や午後も予定はない予定

群馬県吾妻郡東吾妻町

愛知県小牧市

福岡県北九州市

金子 歩美

高橋 守雄

森尾 広志

《小中学生の部 特選》

駄菓子屋のぬるいお釣りと冷えラムネ

満月と小さなどろぼうやってくる

一瞬のぴんとひらめく稲光り

聖霊中学校三年

聖霊中学校三年

聖霊中学校三年

大澤 真結香

島田 愛子

夜露 れい

【横田 欣子 先生選】

《一般の部 特選》

端居して父は戦地の中にある

予鈴鳴るまだ気が抜けぬ雪礫

魚河岸の競り始まり朝桜

愛知県尾張旭市

岐阜県大垣市

名古屋市名東区

川崎 美智子

篠乃池 巴

中村 道子

《小中学生の部 特選》

体育館羽球飛び交う青い夏

じりじりと太陽浴びてきゅうりとる

わっさいのかけ声ひびく秋の空

聖霊中学校三年

瀬戸特別支援学校中学部三年

聖霊中学校三年

ダンボ

中島 彩月

矢島 有梨

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部 特選》

強い虫人生なんか悩まない目の前の葉を食うだけでいい
ふるさとの蝉はむかしの声で鳴く廃線跡の道幅狭し
登り窯薪投げ入れるその刹那白き輝き迸りたり

埼玉県草加市 伊藤 一男
大阪府池田市 太田 省三
愛知県小牧市 中野 秀秋

《小中学生の部 特選》

あめの中見える太陽きらきらとわたしの天気はどんな色かな
目の前に寂しく生きる紅い花水をそそいでいのちを思う
純白のこの関係は片思い色づかないのは君がいないから

聖霊中学校二年 浅野 詩苑
聖霊中学校二年 野田 結月
聖霊中学校二年 村松 凜奈

【近田 順子 先生選】

《一般の部 特選》

弁当の隅に入った漬物が電子レンジに火葬されている
祈りより遙かなものを未だ知らず戦争終結ただただ祈る
前世は人を殺めたやもしれぬ暁紅に染まる身のうらおもて

東京都三鷹市 槓冬 弱虫
瀬戸市八幡台 佐藤 ちなみ
山口県光市 瀬戸内 光

《小中学生の部 特選》

この道にこの人生にこの恋に方程式はないから楽しい
学校はとても楽しいところですたまにつらいけど頑ばっているよ
春の風君と私の思い出と少しずつ消える白いたんぽぽ

筑波大学附属中学校三年 福島 にこ
聖霊中学校二年 美坂 しな乃
聖霊中学校二年 八幡 咲姫

川柳

【なかはら れいこ 先生選】

《一般の部 特選》

鶴折るか兜を折るかまだ白紙
日傘持ち男一人の小宇宙
妻にある朝採り胡瓜ほどの棘

広島県広島市
名古屋市北区
長野県安曇野市
カラスの行水
羽馬 愚朗
穂苺 真泉

《小中学生の部 特選》

貸すもんか買ったばかりの文房具
シャボン玉中にはいれぼにじ見えた
せん風き話かけたら首ふった

光陵中学校三年
名古屋市立平田小学校二年
名古屋市立中小田井小学校四年
小木曾 圭
原 いのり
堀田 青葉

【宮内 多美子 先生選】

《一般の部 特選》

走り出せきつと風からハグされる
ぽかぽかん幸せだけど独りです
雨あがり虹が童話を語り出す

瀬戸市五位塚町
徳島県小松島市
岡山県倉敷市
稲垣 康江
天王谷 一
向原 康夫

《小中学生の部 特選》

あわ玉がしゅわしゅわあそぶ口の中
水平線いつかいきたい向こう側
気をつけてワンクリックで地獄行き

名古屋市立中小田井小学校四年
光陵中学校三年
品野中学校三年
井上 茉那
神谷 幸志
田島 廉

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部 特選》

トマトの情熱

神奈川県海老名市

加藤 水玉

情熱は

言葉にしたとたんに
嘘に変わってしまう
だから私は黙ってしよう

危うい青い時代には

じつと耐え忍んで

その情熱を

心の裡にしまっておくのだ

誰もいない広い畑に

独りだけ置き去りにされると

つい弱気な言葉を口にしてしまう

トマトが語るべき情熱は

宇宙の広さとひとすじの彗星

大地の厳しさと麗らかな早春
湧きたつ情熱で身体が少し赤くなる

トマトに生まれたことは
少しも恥じることもでもなく
むしろ誇るべきである

この世界のたったひとつの存在
トマトが生きた証を刻むために
情熱をかたちにするこだけを考える

情熱は
言葉にしたとたんに
嘘に変わってしまう
だから私は黙っていよう

日常生活

佐賀県佐賀市

内田 茉莉

人は消える

いともたやすく

風でついでるともしびのように

水面で弾けるうたかたのように

花卉を散り落とす花のように

海水に飲み込まれる砂の城のように

人は消える

こんな簡単に

これほどまでに危なっかしい命が

いまだ続いているという奇跡

これほどまでに儂い命が

当たり前のような顔をして生きている奇跡

「いってきます」

と、言つて玄関から出ていった人が

「ただいま」

と、言つてまたこの家に帰つてくること

その日常が

かけがえのないその日常が

ただ　ただ　愛おしくてたまらない

《小中学生の部 特選》

夕焼け

筑波大学附属中学校三年

福島 にこ

自分に自信がない。

本当はやりたくない事も頼まれたら断れなくて。

ヘルプを求めたくてもこれがきつかけで嫌わ

れたらどうしよう
と不安になってしまう。

そんな些細なこ
とが積もりに積って

一人潰れそう
になっってしまった。

そんな時だ
った。窓の外。

真っ赤な
が見えた。言

夕焼け

葉で表すの
が勿体無いほど

美しい。柔ら
かく暖かい光は

「一人で抱え込
まないで」と私に声

をかけてくれてい
る気がした。見て見ぬ

ふりをしてきた心の
傷をそつと撫でられてい

るような気がして私は
無性に泣きたくなった。夕

焼けは今日もやってくる。
人々の心を癒すために。

風

一匹の白い馬がいた

品野中学校一年

森山 透真

その馬はたくましい足で大地をかけていく
険しい道もかけていく

雪が降っても、雷がなってもかけていく

その姿はまるで風のように

いつの日か風すらもおいぬいて

馬はついに光になった